

学校教育ビジョン 学校教育目標「心身ともにたくましく生きる山代っ子を育てる」 1. 児童一人一人の個性を生かし、生きる力と豊かな心の育成に努める。 2. 指導法を工夫し、基礎・基本の定着及び確かな学力を養う。 3. 「聞くー話す」活動を通して、互いの考えを交流し合い、授業の深まりをめざす。 4. いじめのない、不登校児童を出さないような活力ある学年・学級作りに努める。	5. 規範意識の育成と自主的な児童会活動の活性化を図る。 6. 家庭、地域との連携を密にし、児童の健全育成と開かれた学校づくりに努める。 7. 校務分掌を軸に、教師力を結集し、何事も協力と情熱をもって推進する。
--	---

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
①教育課程・学習指導	学年相応の漢字力を身につける。	毎時間の国語の授業や朝自習中で、その学年までに学ぶ基礎的な漢字の習熟の時間を確実に取り、継続していく。	研修部 各学年	家庭学習などきちんとやり、学年相応の基礎学力が定着している児童も多い反面、学習習慣が身に付かず学力の差が開きつつある。	【成果指標】 必要な学年相当の基礎学力(漢字の読み書き)が身についたか。	漢字確認テストの結果が A 80%以上できる児童が80%以上である B 80%以上できる児童が60%以上である C 80%以上できる児童が50%以上である D 80%以上できる児童が50%未満である	判定基準がC・Dの場合は朝自習も含めて、時間や内容、指導法の改善を再検討する。	
	さまざまな活動を通し、ふるさとの自然や歴史・伝統・文化に積極的にふれる。	各学年の総合的な学習の時間において、地域を題材として取り上げ、市のふるさと学習に対しても積極的に取り組む。	総合的な学習の時間 担当 各学年	ふるさと学習に取り組む視点を深め、児童一人一人の意欲を高める必要がある。	【満足度指標】 ふるさとに関わる学習活動の中で、ふるさとの良さを感じ取り、ふるさとが好きという気持ちがもてたか。	ふるさとが好きという児童が A 90%以上である B 70%以上である C 50%以上である D 50%未満である	C、Dの場合指導のありかたを再検討する。	
②生徒指導	基本的な生活習慣を確立し、すすんで挨拶ができる子どもを育てる。	基本的な生活習慣の基礎である正しい服装のあり方やあいさつについて指導する。	生徒指導部	授業規律や集団ルールを守ろうとする児童が増えているが、服装や校内のきまりが守れないことがある。	【努力指標】 基本的な生活習慣が身につくとき、学校のきまりを守ろうとする児童が増えるよう努力できたか。	生活チェックのクラスでの結果が A 80%以上であった B 70%以上であった C 60%以上であった D 60%未満であった	C、Dの場合指導のありかたを再検討する。	
	友だちを思いやり、明るく楽しく学校生活を送る子どもを育てる。	QUTテスト・相談活動・エンカウンターを使った人間関係作りなどを通して、よりよい学級集団作りをすすめる。		優しい言葉がけ、支え励まし合う集団が育ちつつあるが、課題が残る児童も多い。	【成果指標】 QUTテストによる学級経営パターンが満足群に属する児童がふえるよう努力できたか。	QUTテストを実施し、満足群に属する児童の割合が A 60%以上である B 50%以上である C 40%以上である D 40%未満である	C、Dの場合指導のありかたを再検討する。	
③進路指導・生き方指導	勤労体験学習や児童会活動を通して粘り強くやり遂げる態度や責任感を育成する。	係活動、委員会活動、校舎内外の清掃活動、ボランティア活動、縦割り活動などを通じて取り組む。	担任 児童会担当	係活動などを進んで取り組む子が多い。集団として共に関わり合い、励まし合いながら最後までやり遂げることが課題である。	【成果指標】 係活動や委員会活動で責任を持ってやり遂げる児童が増えたか。	係活動や委員会活動など A どの子も責任を持って積極的に取り組んだ B ほとんどの児童は責任を持って取り組んだ C 一部の児童に問題があり、指導中である D 全体指導を要する	C、Dの場合指導のありかたを再検討する。	
④安全管理	交通安全や不審者への対応についての指導を徹底する。	交通安全街頭指導、学級指導に取り組む。交通安全教室を実施する。代っ子見守り隊の方と連携し交通安全に取り組む。	教頭 生徒指導部	学級活動で交通安全指導に計画的に取り組んでいるが、下校後の生活実態では、なかなか表れない部分がある。	【成果指標】 安全に気をつけた行動ができたか。	通学路を通り、安全に気をつけて登下校出来たと答えた児童が A 90%以上であった B 80%以上であった C 70%以上であった D 70%未満であった	C、Dの場合、再検討する。	
⑤保健管理	児童のけがを防止安全に生活できるように児童自身の安全に対する意識を高めるよう努力する。	危険な場所や危険な遊びや行動について具体的に知らせ、日常的に意識して生活するように学級指導に取り組む。	保健体育部 研修部	廊下や部屋の出入り口で、予測可能な、回避可能なけがが多い。	【努力指標】 児童の安全への意識を高めるよう日常的に指導し、けが防止に努力したか。	日常的に校内の安全な過ごし方について指導に努めた学級が A 90%以上であった B 80%以上であった C 70%以上であった D 70%未満であった	C、Dの場合は、指導の改善を再検討する。	
⑥特別支援教育	情報交換やニーズの把握に努め、個に応じた指導の工夫と研修の充実を図る。	支援シートを作成し、それに基づいて効果的な支援を図る。	特別支援教育 校内委員会	気づき票や児童理解の会の記録をもとに校内委員会で支援の方法を検討している。	【努力指標】 児童理解の会や支援会議を開き共通理解を図ると共に、支援シートを作成し指導法の工夫や改善に努めたか。	特別支援体制とその効果について A 十分体制がとれ、効果があった B ほぼ体制がとれある程度効果があった C 体制はとれたが、効果がなかった D 時間的にも余裕がなく不十分であった	C、Dの場合は、指導の改善を再検討する。	
⑦組織運営	各分掌がそれぞれの役割を果たし、組織が一体となった活力のある学校運営を目指す。	組織的な学校運営のために、各分掌が互いの連携を密にする。	各主任	各分掌では主任を中心に積極的に取り組んでいる。学校教育目標との関連を図る活動が重要である。	【努力指標】 各校務分掌で、主任が中心になり、より組織的・機能的な学校運営の推進に努力できたか。	それぞれの校務分掌がより組織的に A 十分機能している B おおむね機能している C あまり機能していない D できなかった	C、Dの場合、組織や運営について再検討する。	
⑧研修	全職員が積極的に国語科の校内研修に取り組む。	国語科の研究授業、公開授業を通して研究会を充実する。	研修部	国語の授業を中心に、他教科でも言葉の力をつけようとしている。	【成果指標】 校内研修が充実し、研修の効果が上がったか。	校内研修の成果に A 十分満足できる B おおむね満足できる C どちらかというと満足できない D ほとんど満足できない	C、Dの場合、研修会の内容、持ち方を再検討する。	
⑨保護者、地域との連携	積極的に学校の考えを伝え、学校関係者評価を実施し、学校運営に生かす。	参観授業、講演会、学校便り、学年便り、学級便り、保護者懇談会、日常的な保護者とのコミュニケーションを通じて連携を図る。メール配信を充実させ、保護者の安心感をUPさせる。	教頭 教務主任	授業参観やわが子が参加する行事への参加率は高い。講演会、PTA活動など自己啓発や他のための活動に進んで参加する保護者の数が少ない。	【満足度指標】 本校の教育活動に対し、保護者が満足しているか。	保護者が A 十分満足している B おおむね満足している C あまり満足とはいえない D 不満が多い	C、Dの場合、原因を分析し、改善策を早急に立て、実践する。	
⑩教育環境整備	学習・生活環境の状況を常に把握し改善に努める。	毎月、定期的に安全点検を実施し、また、日常的に把握した不備な箇所は速やかに整備する。	教頭 各担当	日常的に注意を払い、職員からの情報を得る努力をしている。不備な点があれば迅速に対応している。	【成果指標】 学校内の施設・設備の不備に迅速に対応できたか。	施設・設備の状況を把握し、迅速に整備・修繕が A できた B ほぼできた C あまりできなかった D できなかった	C、Dの場合、速やかに改善する。	